

平成19年度障害者自立支援調査研究プロジェクト 事業実施報告概要

<p>事業名</p>	<p>家庭生活や社会生活に重篤な困難を有する高機能広汎性発達障害への支援方策の開発に関する試行的事業</p>
<p>事業目的</p>	<p>思春期、青年期以降の高機能広汎性発達障害（以下、HPDD）のある人たちにおいては、引きこもりの長期化、家庭内暴力、窃盗等の反社会的行為の繰り返しなどのために、家庭や地域での生活が危機的状況に陥っているケースが増えている。本事業では、対象者及び家族の状況改善を図るために法人内の入所施設の持つ機能の一つとしてシェルター機能を活用し、併せて別に開発した HPDD に適用できる SST を試行した介入を行い、思春期、青年期以降の HPDD の人たちに適用できる支援プログラムの開発に繋げることを目的として試行的研究を行った。</p>
<p>事業概要</p>	<p>発達障害者支援センター（以下、トスカ）が相談受理した以下の3事例について、本人及び親に対する相談面接と、入所施設を利用したアルバイト体験・生活支援を2つの柱とする介入を行った。</p> <p>①家庭内暴力、窃盗を繰り返すA</p> <p>②小学生女兒への接近行為を繰り返し、不審者として近隣住民により警察に通報され、事情聴取を繰り返すB</p> <p>③定時制高校卒業後、家庭への引きこもりが長期化し、母子2人暮らしの中、パニック行動（器物破損、大声をあげて包丁を振り回すなど）を不定期に起こし、その都度警察介入を受けているC</p>
<p>事業実施の結果及び効果</p>	<p>面接や施設利用中の作業・生活の様子、及び介入後の本人や家族（母親）の態度や行動の変化等から、介入の効果が確認された。本人については「アルバイト体験を通じて、自信や達成感、自己効力感を高めることができた」、「引きこもりからの一歩を踏み出すことができた」、「破壊行為や家庭内暴力、窃盗などの反社会的行動が減った」などの状況の変化が生じた。また、家族については、「HPDD の障害特性の理解を進め、本人への望ましい対応方法を獲得できた」、「本人の施設利用中に休息を取ることができた」などの成果が認められた。</p>
<p>事業主体</p>	<p>〒156-0005 東京都世田谷区船橋 1-30-19 社会福祉法人 嬉泉 TEL： 03-3426-2323 E-MAIL： koken@kisenfukushi.com</p>